



妻北っ子だより

令和4年度 4月大型連休直前号 文責 校長

「学校モード」・「休日モード」

新年度が始まり、早くも3週間が経過しようとしています。入学式から2週間ほどたった1年生も、少しずつ学校生活に慣れつつあります。



この期間は、学校生活でのきまりや学年・学級での約束事、発言の仕方や話の聞き方、ノートを使い方といった授業における規律を理解させ、子ども達ができているかどうかを観察しながら、その徹底を図っていく貴重な日々です。

心配なのは、「大型連休」の到来によってせっかく身に付けたきまりや習慣が忘れられることです。

特に生活リズムの乱れ（朝起きれない・朝食をとらない等）は、登校を渋ったり、登校しても心が不安定な状態になってしまったりすることを引き起こしやすいといわれています。

コロナウィルス感染が収束を見せない中、ゆっくり休養することも休日の大事な意義ですが、「学校モード・休日モード」の切り替えができるようにしておきたいものです。

「分からない」に対応する

ひとつ学年が変わると、学ぶ内容もレベルアップし、学習のスピードも速く感じます。職員は、1単位時間（45分）の中で、「この内容を子どもたちに身に付けさせたい」という思いをもって教材研究を行い、授業に臨みます。

しかし、授業の終わりに見届けテストなどを実施してみると、子ども達の理解度はマチマチで、分かってきている子、できているんだけど考え方が説明できない子、できていないけど考え方は合っている子、残念ながら分かっていない子といった結果が明らかになり、ひとつの学習内容を全員に理解させる難しさを痛感する瞬間です。

「その時間での習得ができないのであれば、次の時間で」「それでも難しければ、単元（いくつかの学習内容の集まり）の指導時間の中で」「それでも難しければ、個別指導の時間で」というように、子ども達の「分からない」について積極的かつ臨機応変に対応するようにしています。

ひとつの学級を2名の先生がチームを組んで指導を行う「チーム・ティーチング」という手法も取り入れ、限られた時間や職員数で、一人一人の「分かる・できる」を保障しようとする取組も行っているところです。

環境の変化に適応し、様々な学習内容を身に付けていくというのは、子ども達にとって、かなり高度なことなのかもしれません。

適応できる時間や学習する場を保障しながら、子ども達が自ら新しい知識や技能等を獲得できる取組を「試行錯誤」していきます。

お子さんのことでご相談等がありましたら、遠慮なく学校へお問い合わせ下さい。



「歓迎のあいさつ」

先生方、この妻北小学校によろしくお会いできました。

妻北小学校に来るまでに、ご覧になった先生もいらっしゃるかもしれませんが、妻北小学校の周りには、たくさんの自然であふれています。

1年間いろいろな花が楽しめる西都原古墳群、学校のすぐ近くには都萬神社や記紀の道など、歴史ある建物や神話として語り継がれている場所が数多くあります。

それら西都にゆかりのあるものや歴史、自然について学ぶ「さいと学」という学習が妻北小学校にはあります。

ずっと西都に住んでいるぼくたちでも初めて知ることがたくさんあり、先生方にも知ってほしいことがたくさんあります。

妻北小には、現在2年生から6年生までで、390名、そして入学式を迎えると新しい1年生が69名入学してきます。

朝は、生活委員会が玄関前で元気にあいさつをし、一日のスタートを盛り上げます。

授業では、午前中に5時間あり おいしい給食まで一生懸命学習します。

僕たちや先生方が楽しいのは授業だけでなく、おいしい給食が食べられるうれしい時間があるからだと思います。西都の日という地元の食材を使った献立や、人気のメニューを中心とした月に一度のリクエスト献立という日があります。特にその日は、テンションが上がってしまいます。

授業中は一生懸命友達と学び合い、昼休みには校庭に出て、友達と汗をかくまで走り回っています。僕のクラスは授業も休み時間も元気で活気があり、1日があつという間に過ぎてしまいます。

このように、妻北小は、みんな協力し合い学び合うとても元気な学校です。分からないことがあったら僕たちに何でも聞いてください。

先生方、これからよろしくお願いします。

児童代表 6年3組 川崎 諒二

このあいさつは、4月7日（木）の新任式において、本校に転入された先生方に対して行われたものです。

学校周辺の様子から学校の特徴的な部分を紹介し、（おそらく）自分が一番楽しみにしているであろう給食や昼休みにふれ、「みんな協力し合い学び合うとても元気な学校」で締めくくってあり、聞き手にとって大変分かりやすい構成になっています。

私も、

「妻北小学校って、どんな学校ですか？」

と聞かれることが多々あるのですが、

「みんな協力し合い学び合うとても元気な学校です」

と胸を張って応えられるようにしていきます。

コロナ禍。県内では、まだ3桁の感染者数報告されている状況です。

本年度の学校行事こそは「可能な限り」感染症対策を講じたうえで実施したい考えていたところです。

昨年度は、5月の参観日は中止、PTA総会は書面決議、5年生の宿泊学習を2学期に移し、社会見学や遠足については、幼稚園や保育所とのふれあい活動を省略したり、密を避けるためにバスの台数を増やしたり、といった変更をした経緯があります。

市音楽大会、小学校陸上記録会についても、運営経験者の減少による安全な計画準備実施への不安、市内の小学生在が一時的にでも一堂に会することへの心配等により、中止という判断がされています。

市内小学校の貴重な交流の場とも言えますが、本年度も感染状況等をにらみながら、市教育委員会や関係者と相談のうえ、場合によっては苦渋の選択をしていくことになりそうです。